

【4. 選択必修領域:国際理解・異文化理解】

| 講習内容 | | | | | | | |
|---|------------------------------|--|---|--------------------------------------|--------------|----|-------|
| 今日、広い視野を持って、異文化を理解し、異なる習慣・文化をもつ人々と共に生きるための資質能力を育むことの重要性が高まっています。本講座においては、国際理解・異文化理解に関わる基本的な知識、考え方の理解と、教育実践上の課題について、地域、社会、歴史、言語等、様々な角度から考察します。 | | | | | | | |
| 講座 | 講座テーマ | 内 容 | | | 受講対象 | 時間 | 担当者 |
| | | 講座概要 | 到達目標 | キーワード | | | |
| ④-1 | 国際理解・異文化理解に関わる基本的な知識、考え方について | 異文化理解とは直線的なものではありません、生活習慣が異なり、信条が異なる者が外国に入ることや摩擦を生み、時には危険な事態や生活上の困難などに会いつつ先人の試行錯誤と自分自身の経験を総合的に理解しながら模索していくものである。19世紀のフランス文学者ジェラール・ド・ネルヴァルの旅行紀を読むことでその具体例にふれて考えていく。 | 異文化を理解することの困難さを時間を越えた大きな文脈の中で実感することを疑似体験することで国際社会において大きな間違いを行わないような見識を身に着けていくことがどのようなことであるか考えさせる例を知る。 | 19世紀、フランス文学、イースラム圏、旅行 | 小・中・高 全教諭 | 3 | 藤田 衆 |
| ④-2 | 国際理解・異文化理解に関わる基本的な知識、考え方について | 現代世界において求められる異文化理解の基本的概念を理解し、異文化の視点を通して、自文化を客観的に捉えることの重要性を考える。具体的な事例として、アメリカを中心とした英語圏の価値観や規範について取りあげ、日本文化との比較の視点から理解を深める。多様な学術分野の諸理論に依拠する異文化理解の理論的枠組みについて批判的に考察するとともに、学習者主体の異文化理解教育の方法論についても実践的な学びを通して可能性と課題を探る。 | 異文化理解教育を推進するにあたって基本となる概念及び方法論について一定の知見を獲得し、その教育現場での適用を構想すること。異文化理解についての理解を深めるための実践的な学習方法を体得する。アメリカを中心とした英語圏の価値観や規範等が異文化理解に与える影響について、比較文化の視点から理解すること。文化的学びの過程については、異文化感受性を測る世界標準の手法を考察し、日本での適用方法の可能性と課題についての理解を得る。 | 異文化理解の基本知識の習得と応用、比較文化の視点から捉える異文化理解教育 | 小・中・高 全教諭 | 3 | 二神 真美 |